

アヴィシャイ・コーエン (b)

**Avishai Cohen** (b)イスラエル・ジャズをネクストレベルへと誘う  
世界が惚れた鋭才

Yoko Higuchi



1970年 北部のキブツ生まれ。1992年にオメル・アヴィタルらと時を同じくしてニューヨークに渡り、グリニッジ・ヴィレッジのジャズクラブなどでジャズを学ぶ。1997年から2003年にかけてはチック・コリア & オリジンのベーシストとして活躍し、一躍その名が知れ渡った。1998年にはチックのStretchレコードから「Adama」でリーダー・デビュー。同レーベルからは、「Devotion」、「Colors」、インターナショナル・ヴァン・バンドを率いた「Unity」をリリース。2003年には自身のレーベル Razdaz Recordz を設立。第1弾アルバム「Lyla」は、ワールドワイドなジャズ・シーンにおいて最も才気溢れるジャズ・プレイヤーの登場として注目を集めた。その後リリースした2008年の「Gently Disturbed」、2009年の Blue Note 移籍第1作目「Aurora」、2011年リリースの「Seven Seas」はいずれも現代ジャズの最高峰アルバムとして高い評価を得ている。最新リーダー作は、ピアニスト、ニタイ・ハーシュコヴィッツとのデュオ・アルバム「Duende」。現在は母国イスラエルに戻り、テルアビブを拠点に活動中。

アヴィシャイ・コーエン (tp)

**Avishai Cohen** (tp)次代を拓く、時代を変える、  
紛れもない怪物トランペッター

Yoko Higuchi



1978年 テルアビブ生まれ。前出の同名同名ベーシストと並び、こちらも今や世界を股にかけて大活躍。現代ジャズ・シーンを代表するトランペッターとしてその名を馳せている。1997年にボストン移住。パークリー音楽院に籍を置き、同年「セロニアス・モンク・コンペティション」のトランペット部門の3位に入賞。2002年に Fresh Sound からリリースしたリーダー・デビュー作「The Trumpet Player」は、バリアリの硬派路線でかっ飛ばす「ニュースターの誕生」として一躍注目を浴びた。その後、西アフリカ音楽のグルーブに根差したコンセプト作「After The Big Rain」と「Flood」をリリース。「マルチ・カルチュアル」なジャズ・ミュージシャンとしての評価を決定的にした。2012年には、2010年作「Introducing Triveni」の続編となる「Triveni」をリリース。また、兄でサクソフォニストのユヴァル、姉でクラリネット / サクソフォニストのアナットとの3コーエンズ、オメル・アヴィタルとのサード・ワールド・ラヴ、ほかSFジャズ・コレクティブ、ミンガス・ビッグバンドなどのメンバーとしても活躍している。

オメル・アヴィタル (b)

**Omer Avital** (b)侠客の低音で今日も広漠荒野を往く、  
嗚呼、頼もしき総大将

Yoko Higuchi



1971年 ギヴァタイム生まれ。1992年、アヴィシャイ・コーエン(b)ら同志たちと共にニューヨークに移住。名門ニュースクール大学に入学後、ブラッド・メルドー、ロイ・ハーグローヴらと交流。2001年、初リーダー作「Think With Your Heart」を発表。その後一時的な里帰りを挟み、2005年 再びニューヨークに移住。Smalls ジャズクラブを拠点に、2006年には「Asking No Permission」をはじめ3枚のアルバムをリリース。ほか現在に至るまで、「Room To Grow」、「Free Forever」、「Live At Smalls」、「Suite Of The East」といったリーダー作を残している。その重く分厚いサウンドと類稀なコンボジション・スキルで「ミンガスの再来」とも言われる現代ジャズ最高のベーシストとして「イスラエル・ジャズ」をレパリエントしている。自己グループのほか、サード・ワールド・ラヴ、「Yes!」トリオ、OAM トリオ、さらには、ラビット・カハラニ(vo)を中心としたイェメン・ブルース、モロッコ音楽の宗家ラビ・ハイム・ルーク率いるニュー・エルサレム・オーケストラといった様々な別働プロジェクトでも活動中。

「たぶん音楽を欲しているレベルが違っただけと思う」  
—上原ひろみ (紅海ジャズ・フェスティバルに参加して)

—決定版—イスラエルジャズカイト

**SENSATIONAL ISRAELI JAZZMEN**

イスラエルジャズメンの群像を追って



エリ・デジブリ (s)

**Eli Degibri (s)**ハンコックら巨匠メンターを数多酔わせた  
センシティブ・ブロウ

Yoko Higuchi



1978年 ヤッフオ生まれ。ブルガリア人とベルジャ人の血を引くサクソ奏者エリ・デジブリは、十代の頃からプロのジャズ・ミュージシャンとして活躍し大膽の片鱗を見せていた。1997年、アヴィシャイ・コーエン(tp)と同じタイミングでボストンのパークリー音楽院に留学。1999年にはハービー・ハンコック・セクステットのメンバーに抜擢され、アルバム『Gershwin's World』のレコーディングおよび世界ツアーに同行した。その後はアル・フォスター、ミンガス・ピックバンド、ロン・カーター・カルテットなどに参加。2003年に『In The Beginning』でリーダー・デビュー。カート・ローゼンウィンケル(g)、アーロン・ゴールドバーグ(p)といったニューヨーク・ジャズ・シーンの名士たちがその門出をがっちりバックアップしている。また2010年にはブラッド・メルドゥー(p)、ロン・カーター(b)、アル・フォスター(ds)と、こちらにも輝々たるメンバーが参加した『Israeli Song』をリリース。2011年からアヴィシャイ・コーエン(b)の後任として紅海(レッドシー)ジャズフェスティバルの芸術監督に就任。2012年の初回ユネスコ国際ジャズデーでイスラエルを代表しNYの国連本部で演奏、上原ひろみと共演。2013年8月には、満を持しての新作『Twelve』の発売も決定した。

アナット・コーエン (s/clarinet)

**Anat Cohen (sax/cl)**コーエン三兄妹の総領嬢は  
現代最高のクラシカル・ジャズ伝道者なり

サクソ奏者の兄ユヴァル、トランペット奏者の弟アヴィシャイとの「3コーエンズ」としての活動でもおなじみのクラリネット / サクソ奏者アナット・コーエン。1999年、ニューヨークに本格進出。Smallsクラブを拠点に、オメル・アヴィタル、ダニエル・フリードマンらと親睦を深め、最前線のジャズを体感。2005年には自らのレーベル「ANZIC」を設立し、初リーダー・アルバム『Place & Time』をリリース。トラッド・ジャズの芳しさに、ブラジルのサンバ、アルゼンチンのチャカレーラなどラテン・ミュージックのエッセンスが散りばめられた彼女の独特な音楽スタイルは、本場ニューヨークのジャズ・ファンから「現代最高のクラシカル・ジャズ伝道者」と称賛されている。2009年にはイスラエル人として初めてヴェレージ・ヴァンガードへのヘッドライナー出演を果たし、この模様は『Clarinetnetwork: Live at the Village Vanguard』に収められている。最新作は2012年リリースの『Clarscuro』。

ダニエル・ザミール (sax)

**Daniel Zamir (sax)**ユダヤのソウルをジャズに託して三千里。  
イスラエルの良心がここにある

Yoko Higuchi



1980年 ベタハ・ティクバ生まれ。伝統的なジューイッシュ音楽、クレズマー、ハシディックなどの東欧音楽にジャズのエッセンスをまぶしたその独特の音世界は、こちらで紹介しているイスラエル・ジャズメンとはやや一線を画すると言えるかもしれない。テルマ・イエリンでジャズ・サクソを学んだザミールは、90年代末にニューヨークに移住。同じユダヤの血を持つジョン・ゾーンに見初められる形でゾーン主宰の「Tzadik」レーベルと契約を交わす。2000年には自身のグループ「サトラ」を率いて、親方ゾーンも参加した初リーダー・アルバム『Satlah』をリリースした。イスラエルに帰国後の2006年には、オメル・アヴィタル(b)、アヴィシャイ・コーエン(tp)、オムリ・モール(p)、ダニエル・フリードマン(ds)らがサイド参加した『Amen』が話題に。最新作は、シャイ・マエストロ(p)、ハガイ・コーエン・ミロ(b)を迎えた『Song For Comfort』。

オズ・ノイ (g)

**Oz Noy (g)**右手のガッツはブルーズマンのそれ。  
これぞミクスト・ギタリズムの極北

John Abbott



1972年 テルアビブ近郊生まれ。10歳からクラシック・ギターのレッスンを始め、翌年にはエレキに転向。13歳頃からセッション・ギタリストとしてのプロ活動を開始。早15歳のときにはイスラエルの主要アーティストとレコーディングを行っていた。1996年に活動拠点をニューヨークに移し、様々なセッションに参加。2003年には、老舗ロック・クラブ「Bitter End」での4日間のギグを取録したライブ盤『Oz Live』でデビューを果たす。変幻自在のペダルワークを駆使しながら、ジャズのみならずファンク、ブルース、ロック、ポップス、映画のサウンドトラックやコマーシャル・ソングまでもマルチにこなすその演奏・作曲能力は、タレント揃い踏みイスラエル・ジャズ勢の中でもアタマひとつ抜き出ている。リチャード・ボナ、クリス・ボッティ、マイク・マイニエリら数多くのミュージシャンのツアーやレコーディングに参加し、その才能は瞬く間にワールドワイドな広がりを見せている。最新作は2011年の『Twisted Blues Vol. 1』。

ギラッド・ヘクセルマン (g)

**Gilad Hekselman (g)**飛躍するヤングGメン、  
N.Y.トレンドリーダーに早くも王手!

1983年 クファル・サバ生まれ。2005年の「ギブソン・モントルー・インターナショナル・ギター・コンペティション」で優勝したことをきっかけに注目を集め、早12歳にして地元イスラエルの子供向けテレビ番組のバックバンドでプロ・ギタリストとしての演奏を行っていた。テルマ・イエリンで本格的にジャズを学びんだ後の2004年にニューヨーク進出。ジョン・スコフィールド(g)らと共演を行ないながら腕を磨き、2006年に初リーダー・ライブ盤『Split Life』をSmallsからリリース。ニューヨークのNo.1 テクニシャン・ドラマ、アリ・ホーニグとの絡みもあり、一気にその頭角を現した。2008年には初スタジオ・アルバム『Words Unspoken』、さらにはそのレギュラー・ギタリストの座にも就いたホーニグのリーダー・コンボ録音『Bert's Playground』の中で、小ぶりなハード・ロバーツ・モデルのセミアコを弄り、持ち前のクリアでメロディアスなサウンドを存分に鳴らした。2012年には「東京JAZZ」への出演も果たす。最新作は今年リリースされた『This Just In』。

シャイ・マエストロ (p)

**Shai Maestro (p)**イスラエルが世界に誇る  
うら若きジャズピアノ・マエストロ

Yoko Higuchi



1987年 テルアビブ生まれ。5歳のときからクラシック・ピアノを学び、8歳のときに聴いたオスカー・ピーターソンの『Gershwin Songbook』でジャズに開眼。テルマ・イエリンではジャズとクラシックを両立して学び、またインド音楽をはじめとする民族音楽論の基礎もこの時期にマスター。結果的に優等学位を取得した。その後モエルサレム音楽アカデミーでジャズとクラシックのピアノ、さらにリアルタイム・コンポジションを学び、満を持して移住したニューヨークではジャズ・クラブのみならず、コンサート・ホールからクラシック・リサイタルまであらゆる舞台シチュエーションでの演奏をこなした。2006年からは、ベニストのアヴィシャイ・コーエン・グループのレギュラー・ピアニストの座を射止め、『Gently Disturbed』、『Sensitive Hours』、『Aurora』、『Seven Seas』のレコーディングに参加し、その名を一躍知らしめた。2011年にアヴィシャイ・グループを離れ、2012年、初のリーダー・アルバム『Shai Maestro』をリリース。また、今年3月には初の来日公演も行っている。



We fly to more countries  
than any other airline

トルコ航空は成田・関空からイスタンブール経由で  
テルアビブへ毎日6便運航しています。

Globally Yours | **TURKISH AIRLINES** 

ヤロン・ヘルマン (p)

**Yaron Herman (p)**

ヨーロッパの風薫る  
極めて機知に富んだリリカル・ピアニスト



1981年テルアビブ生まれ。ピアノ歴のスタートは極めて遅く、16歳の時(それまでは、バスケットボールのナショナル・チームの一員として将来を期待される存在だったが、致命的な足の負傷により競技生活を断念したそうである)。ピアノの師であった Opher Bayer は、哲学、数学、心理学などを基本としたユニークな教授法で知られる人であったが、その薫陶を受け、わずか2年後に権威ある賞として知られるリモン・スクール・オブ・ジャズ・アンド・コンテンポラリー・ミュージックの「若き才能部門」賞に輝いた。これはイスラエルの音楽界、ピアノ界の歴史においても極めてユニークな出来事であり、この才能に恵まれた青年の早熟とも思える知性の表出が多くの人に認められ、かつ驚きとして受け止められた。日本デビューは、なんと東京の墨田トリフォニーホールにおけるソロ・ピアノ・コンサート。ジャズ・ピアニストのデビューとしてはこれらも型破りで、異色中の異色。パリを拠点に活動しているのでNY組とは距離があるが、ギラッド・ヘクセルマンやドラムのジブ・ラヴィッツらと交流がある。ヨーロッパを中心に人気沸騰中。

## Great Israeli Jazz from World



### Anzic Records

ユダヤ系ジャズ・アーティストのシーンを語る時、避けては通れない最重要レベル。Anat Cohenと、テルアビブの高校時代からの仲間であるOded Lev-Ariが、2005年NYで設立。NYで才能を開花させるアーティストを大フィーチャー！ <http://www.anzicrecords.com/>



### Plus Loin

Avishai Cohenのデビュー作を手がけたことでも知られるパリ拠点のレーベル。今年来年はOmer Klein, Eli Degibri, またOmer Avitalらの作品をリリース！ Eliの作品にはChick Coreaも注目するGadi Lehaviも参加！ <http://www.plusloin.net/>



distributed by **KING INTERNATIONAL INC.** Tel: 03-3945-2333



シャマイム

SHAMAIM  
ISRAELI RESTAURANT and PUB

東京都練馬区栄町4-11 アートビル 2F TEL:03-3948-5333  
<http://shamaimtokyo.com/>

イスラエルジャズ随時・リクエストはスタッフまで



イスラエル料理 **ターム**  
Ta-im

渋谷区恵比寿1-29-16 ベルハイムC  
☎03-5424-2990  
<http://www.ta-imebisu.com/>

イスラエルジャズと、美味しいイスラエル料理



**PINK-CAMILA**  
ISRAELI BISTRO  
ピンクカミラ

東京都目黒区下目黒1-5-16 本田ビル 2F  
☎03-6417-9888  
<http://www.pinkcamila.com/>

イスラエルジャズ ☆ イスラエルワイン ☆ イスラエル料理 ☆ が楽しめる店

イスラエルでは気楽にジャズが聞ける。ライブ・ハウスの入場料は日本の半額程で(物価は日本とほぼ同じ)、ドリンクを頼まず、満席だったら地べたに座ればいい。アーティストと観客の距離が近いのも嬉しい。「素晴らしい演奏だった!」と演奏直後の感動を直に伝えることができる。そのアーティストがNYで大活躍するギタリストのギラッド・ヘクセルマンやオズ・ノイ、また日本でも注目株のシャイ・マエストロだったり、ファンにはたまらない環境だ。

ライブハウスでは子供?の姿も目にする。将来のジャズ・アーティストを目指す中高生達だ。彼らがイスラエル・ジャズをさらに活気づけている。ジャズが学べる芸術学校に通い、中学生になれば作曲する。そのオリジナル作品は実に多様だ。イスラエルは国民の三人に一人が移民、「音の原風景」も家庭によって様々。豊かな音楽に囲まれて育ち、人生とは何かを模索する若者が、ジャズを通じた自己表現を追求する。他人と異なることを美德とする社会が彼らを後押しする。生まれてくる曲が面白くないはずがない。型にはまらないジャズのスタイルを身につけた若者は、高校卒業時にはプロ意識を抱き、やがて世界に飛び出す。どこに行っても自分を信じてマイペースの彼らは、NYで「物怖じしない」と評価される。

1992年にアヴィ・シャイ・コーエンやオメル・アヴィタールがNYに向かい、イスラエル・ジャズは幕を開けた。今では大勢のイスラエル人アーティストが世界で活躍する。イスラエルではアーティストの脚音が瑞々しい音を奏でる。ジャズフェスでも会場を盛り上げるのは若者達だ。イスラエル・ジャズ、これから目が離せない。

樋口義彦 (在イスラエル日本大使館元専門調査員) / Yoshihiko Higuchi

## 「イスラエルに行ってみました!」 Impressions

2011年 International Exposure for Jazz and World Music に参加させていただき、イスラエルのジャズの鮮烈なるパンチを浴びてきました! 世界中から40名以上の音楽関係者が参加し、前半はエルサレム、後半はテルアビブで朝から晩まで合計30近くのライブとまさに音楽漬け。とにかく本当にびっくりしたのは、イスラエルのジャズミュージシャンのレベルの高さと獨創性です。中でも次世代を担うサクソ奏者 Eli Degibri の演奏にはすっかり心奪われました。10代のアーティストも多数参加し、層の厚さを見せつけられました。初イスラエルで味わった音楽は、もちろん最高! 街並みも素敵、そして何よりも食べ物美味しくヘルシー。イスラエルに行っただけで、なんだか洗練された気持ちになりました。

そして、日本イスラエル国交樹立60年にあたる2012年、東京JAZZで、そんなイスラエルのジャズシーンの一端を紹介したいと願い、バブルカン・ビート・ボックス、オズ・ノイ、そしてギラッド・ヘクセルマンに出演していただきました。

とにかくイスラエル・ジャズは、パンチが効いているのに、洗練されていて、知れば知るほど、興味が深まります。今年の東京JAZZでは9月7日「the PLAZA」公演にヨタム・シルバースタインが出演します。ヨタムの「洗練とパンチ」をどうぞお楽しみください!

八島敦子 (東京JAZZプロデューサー) / Atsuko Yashima

## 「イスラエルジャズ概論」 Overview

イスラエル・ジャズメンの多くは若くしてジャズの本場ニューヨークに活動の場を求め、三々五々、己の出自と向き合いながらメッカを巡礼した。彼らのそんな初期衝動や情熱の結晶が、今ではシーンにひとつの潮流をかたちづくるまでになったというのは、もはや多言を要しないことであるかもしれない。

「イスラエル」と聞くと、どことなくアラビックな旋律に支配されたワールド・ミュージック然とするサウンドを想像してしまうかもしれないが、ニューヨークに活動拠点を置く(または置いていた)彼らの音には、出自となるイスラエル、ジュエイッシュ(ユダヤ)、または近隣アラブ諸国の音楽要素がその根幹を成しながらも、ジャズのメッカで身に付けた洗練さや尖鋭さ、または歴史の重みというものがしっかりと組み込まれているのも、その大きな特徴のひとつ。結果今までにないハイブリッドなジャズ・サウンドが生成される。

ここ10余年のシーンにおいて最もアツク、そして心情三派のスクラム・ダウンでジャズの未来を切り拓いていく、彼らイスラエル・ジャズメンの一挙手一投足、さらにその妙妙たる作品たちにグッとフォーカス。

小浜文晶 (ローソンHMVエンターテイメント) / Fumiaki Kohama

企画・制作：イスラエル大使館文化部 TEL:03-3264-0392

協力：トルコ航空 / オフィス・ズー / ビデオアーツ・ミュージック / 阪急コミュニケーションズ[e-days](表紙コメント) / HMV / Tower Records / Disk Union / Cotton Club / キングインターナショナル / 東京JAZZフェスティバル / Division For Cultural & Scientific Affairs, Ministry of Foreign Affairs, Jerusalem / Israel International Exposure for Jazz and World Music



## ヨタム・シルバースタイン・トリオ Yotam Silberstein Trio

初来日にして東京JAZZフェスティバル初参加。  
奇をてらわないストレートな作風と歌心で、  
モダン系からメセニー・ファンあたりまで広くオススメ!

ヨタム・シルバースタイン(g) / バラク・モリ(b) /  
アミール・ブレスラー(ds)  
Yotam Silberstein(g), Barak Mori(b), Amir Bresler(ds)

- 9/6(金) B 2セカンド / 水戸
- 9/7(土) 東京JAZZフェスティバル
- 9/8(日) Body & Soul / 南青山
- 9/9(月) Pit inn / 新宿
- 9/10(火) ライフタイム / 静岡



## ギラッド・ヘクセルマン・トリオ Gilad Hekselman Trio

メセニー、カートに追随するNYトレンド・リーダー。  
昨年の東京JAZZフェスティバル、衝撃の即売!  
今年こそはお聴き逃しなく。

ギラッド・ヘクセルマン(g) / ジョー・マーティン(b) /  
ジャスティン・ブラウン(ds)  
Gilad Hekselman(g), Joe Martin(b), Justin Brown(ds)

- 11/1(金) ライフタイム / 静岡
- 11/2(土) Pit inn / 新宿
- 11/3(日) B セカンド / 水戸
- 11/5(火) ル・クラブジャズ / 京都
- 11/7(木) Pit inn / 新宿
- 11/9(土) Kenny / 松坂
- 11/10(日) Body & Soul / 南青山



## オメル・クライン・トリオ Omer Klein Trio

2013年の屈指の注目作「To The Unknown」がロングセラー中!  
イスラエル独特の胸に響くエキゾチックなメロディと  
躍動感あるピアノが絶妙に絡み合う極上のトリオサウンド

オメル・クライン(p) / ハガイ・コーエン・ミロ(b) /  
ジブ・ラヴィッツ(ds)  
Omer Klein(p), Haggai Cohen Milo(b), Ziv Ravitz(ds)

- 12/5(木) Pit inn / 新宿
- 12/6(金) ライフタイム / 静岡
- 12/7(土) Body & Soul / 南青山
- 12/8(日) B セカンド / 水戸
- 12/9(月) ル・クラブジャズ / 京都
- 12/11(水) スイングホール / 武蔵野市

▶ 稲田 利之 (タワーレコード難波店) / Toshiyuki Inada

TOWER RECORDS



## Seven Seas (七つの海)

Avishai Cohen (b)

米国のみならず、ヨーロッパでも絶大な人気を誇るシーンの先駆者

1970年エルサレムの地に生まれ育った少年は、21歳でジャズのメッカ、ニューヨークにたどり着きました。生活のために建設現場での日雇い労働も続けながら、異国の地で音楽仲間とのコネクションを少しずつ築いていきました。90年代中頃チック・コリア(p)との出会いが彼の世界を一変させました。2000年以降、自らリーダーとして活動を始め、様々なコンセプトのもとその音楽性を開花させました。彼のルーツでもある中東の音楽とジャズを見事に昇華させた2009年の「Aurora」そして、さらなる洗練を加えた2011年の「Seven Seas」は、一時的なイスラエルへの帰郷を機に生み出された彼の音楽性の神髄を凝縮した作品とも言えます。ピアノ、パーカッション、ウード、そしてヴォーカルの織りなすサウンドと多彩なグルーブが生み出す神秘的なサウンドは高く評価され、ニューヨーク、中東、そしてヨーロッパ各地で多くの音楽愛好家達を唖らせたワールド・スタンダードな現代ジャズの逸品です。



## Triveni

Avishai Cohen (tp)

クリエイティヴで自由奔放なトランペットの吟遊詩人

1978年テルアビブの音楽一家に生まれ育ち、3兄弟で「3COHENS」としても活動するトランペット奏者のアヴィシャイ・コーヘン。ベーシストの先輩とももちろん同姓同名で、ニューヨーク・シーンでのこの10年余りの活躍ぶりは目を見張るものがあります。オールスターユニット、SFジャズコレクティブへの参加から、イスラエルとも縁の深いフランス人シンガーソングライター、ケレン・アンとのワールド・ツアーなど様々なユニットで多忙な彼ですが、そんな彼の等身大のポートレートとも言える作品が、この「Triveni」です。2010年にリリースされた同時期録音の「Introducing Triveni」同様、ベースとドラムスのみを従えたこのアコースティックなプロジェクトは彼の音楽性の基盤であり、ジャズトランペットの大きな流れの中で稀有な存在となりつつある彼のトランペット演奏を存分に味わえる作品です。



## Shai Maestro

Shai Maestro

孤高のピアノズムを表現する神童ピアニスト

2008年にリリースされたアヴィシャイ・コーヘン(b)のピアノトリオ作「Gently Disturbed」を耳にした方はきっと誰もが思ったに違いありません。「このピアニストは誰だ？」チック・コリア、ダニーロ・ペレス、ブラッド・メルドーら現代のジャズシーンを牽引する様々な世代のピアニストと共演し、自らもピアノを奏するアヴィシャイ・コーヘンの耳に叶ったピアニストこそ、1987年生まれ当時まだ21歳のピアニスト、シャイ・マエストロでした。2012年に待望のデビュートリオ作「Shai Maestro」をリリースし、2013年3月には来日公演も好評に終えました。力強く情感溢れる美しいピアノのタッチ、敢心にあふれたアドリブのライン、インド音楽を学んだという経験も納得の繊細で濃密なグルーブ感は、聴くものを飽きさせることなく、彼のピアノの世界に誘います。2012年間ベスト作品との評価も多いピアノトリオの良盤です。

▶ 四浦 研治 (ディスクユニオン新宿ジャズ館) / Kenji Yotsuura

disk union



## Song For Comfort

Daniel Zamir

ジャズミュージックが浮き彫りにするイスラエル音楽の現在

まさに彼こそが、ここで紹介される誰よりも広義のジャズミュージックという新たな音楽観をイスラエルの地から世界へ発信している唯一無二の存在であるといっておよいだろう。このアルバムは彼の最新にして最高傑作の一枚である。本作に参加するミュージシャンを列挙させていただきただけで、その価値の奥深さがわかることだろう。マーク・ジュリアーナ(ds)、シャイ・マエストロ(p)、ハガイ・コーエン・ミロ(b)、アミール・プレスラー(ds)、ギラッド・アプロ(b)といったニューヨーク〜イスラエルのジャズミュージシャンの精鋭だけにとどまらず、ニューヨークのレゲエシンガー、マティスヤフにイスラエルが世界に誇るSSWのペリー・サカロフとヨニ・リヒターまで迎え、「歌」を中心においたジュエッシュミュージックが持つ最大の魅力を表現しているのだ。その音世界は現在進行形のイスラエルの音楽の集大成といってもよいのではないだろうか。ユダヤ音楽のクレズマーやハシディックなども踏まえたダニエルのソプラノサックスの響きはまさにその「歌」なのである。



## The Omer Avital Marlon Browden Project

Featuring Avishai Cohen & Omri Mor

Omer Avital

イスラエルの地で体感されたジャズのグルーブの真実

本作はベーシストのオメル・アヴィタルがアメリカのドラマー、マーロン・ブローデンと組んだ、ジャズをはじめ、ファンクやワールドミュージックまでをも包括したグループ系のバンドで、エルサレムの南の工業地帯に位置する Tzolelet Tzehubah に出演した際のライブ音源を収録した作品となっている。フロントにトランペットのアヴィシャイ・コーエン、エレクトリックピアノにはこの時19歳のイスラエルのジャズの未来を担う逸材であるオムリ・モールが迎えられている。アヴィシャイも参加する、いまアメリカのジャズシーンで注目を集めるユニット、サンフランシスコ・ジャズコレクティブのスティヴィー・ワンダー曲集のサウンドの起源を既にこの作品の中に見つけることができるほど、このグループが放つサウンドの先進性に驚きを禁じえない。特にアヴィシャイの電化したワウサウンドは必聴である。このアルバムを聴くことでイスラエル人のオーディエンスとともに生まれた音々の熱気を堪能していただければ、イスラエルのジャズの現在が理解できるのではないだろうか。



## Arrival

Yotam Silverstein

イスラエルジャズの持つポテンシャルにただただ、感嘆

現在はヨタムというノーファミリーネームでジャズのメッカ、ニューヨークで活躍する彼がフレッシュサウンドレーベルのニュータレントシリーズから2004年にリリースしたアルバム。本作のリリース後に彼はアメリカに渡るわけだが、すでに完成された彼らのジャズ、彼らのサウンドが聴きどころとなっている。このトリオの出会いは高校のときであった、そうイスラエルでの先進的ジャズ教育のまさに賜物といったところか。いま、たくさんの若いイスラエル人ジャズミュージシャンがアメリカで活躍している秘密の一端がそこにあるのだ。本作のベーシストは先に紹介したダニエル・ザミールのアルバムにも参加するギラッド・アプロである。彼らが現在のイスラエルのジャズシーンを引っ張っていることも注目してもらいたい。ヨタムのギラッドとのオリジナルをはじめ、スタンダードの「トゥー・クローズ・フォー・コンフォート」のトラディショナルな解釈や「ジャスト・ワン・オブ・ソーズ・シングス」の現代的なアレンジなど、現在進行形のメインストリームジャズをアメリカから遠く離れたイスラエルから発信した力強い作品となっている。

▶ 小浜 文晶 (ローソンHMVエンタテインメント) / Fumiaki Kohama



## Songs And Portraits Third World Love

スティックなまでにジャズを追求したからこそそのアンサンブルへアドリブ

オメル・アヴィタル、アヴィシャイ・コーエン(tp)、ヨナタン・アヴィシャイ(p)、ダニエル・フリードマン(ds)によるユニット=サード・ワールド・ラブの5作目。イスラエルとニューヨークの両国間を行き来しながら活動する彼らにしか作り得ないものを明示した点からも、本ユニットは現代ジャズ・シーンにおいて極めて稀有な存在。オフラ・ハザの歌唱で有名なイエメン民謡「Im Ninalu」、黄昏〜恍惚感たっぶりの「Song for Sankoum」、ヨナタン作の「A Night in Zebulon」など出自を顕かせる楽曲においても、スティックなまでにジャズを追求したからこそそのアンサンブルやアドリブの妙が随所に光る。それこそが彼らの音楽の肝であり、ニューストームたる所以。オメル作の「The Abutbul」では、彼の地特有の哀愁〜男泣きの旋律が、ジャズのエキサイティングな即興性や N.Y. 主流派ならではの洗練された流儀と融合してゆく。



## Hearts Wide Open Gilad Hekselman

そのクリアーで温かみのある音にはしっかりとまごころが詰まっている

現代ジャズ・ギターのトレンドリーダー、カート・ローゼンウィンゲルに追い付け追い越せ。イスラエル=ニューヨーク勢の新生代ギタリスト急先鋒ギラッド・ヘクセルマンの3枚目のリーダー・アルバム。通称「Hex Trio」と呼ばれているジョー・マーティン(b)、マーカス・ギルモア(ds)のリズム隊を擁したレギュラートリオに、4曲でニューヨークが誇るテナー名士マーク・ターナーが参加というフォーマット。牧歌的な口笛に導かれてスタートする「Hazelnut Eyes」では、コロコロとよく転がるメロディアスなフレーズと緩急自在のアドリブを流麗に紡ぎながら、主役ギターがテンポよくスペースを駆け巡る。スリリングなテーマにて疾駆する「One More Song」、スロー・ブルースの「Brooze」、モーダル・バラード「Hearts Wide Open」など自前曲のクオリティは極めて高い。何よりそのクリアーで温かみのある音にはしっかりとまごころが詰まっていることを感じさせる。



## Duet Omer Klein & Haggai Cohen Milo

ジュウイッシュとしての牧歌と胸焦がすジャズのポーシオン

若くしてジャズ以外のセッションにも引張りだこのベース奏者ハガイ・コーエン・ミロ。本特集的には、オメル・クラインの“良き相棒”と言えば適当だろうか。最新作「To The Unknown」でも色濃く滲み出ている、出自イスラエル〜ジュウイッシュとしての牧歌と胸焦がすジャズのポーシオン。その絶妙なハーモニーは、双頭名義ながら、オメル、ハガイ両者にとって初のリーダー・セッション作となったこちらの「Duet」においても早や顕著。「Song #1」、「Desert Song」など、肝胆相照らすミニマルなアンサンブルによって、ジャズ大国に今まで見たことのない花が咲き誇る。彼らの牧歌は、僕らのエキゾ。あたかも、モノクロ時代のジャズの面影さえもちらつかせて。ときに現代ジャズの磁場は、徒なコンゴロマリットのテコ入れによって荒らされ狂いが生じている…とも揶揄されるが、彼らイスラエル勢のこうした新味なれど懐かしさも漂うアプローチは、21世紀ひとつのスタンダードになったと言ってもブラフではないだろう。



ジャズの聖地ニューヨークを中心に発信される生々しい「ジャズ」がそこにはある!

ジャズの次世代音楽家たちによる毎月の新作から、全国各地のタワーレコードのバイヤー達が、こだわりのセレクトで推薦盤の数々を紹介します。現在進行形のジャズをぜひ店頭でチェックしてみてください!



「JAZZ THE NEXT」常設店舗  
タワーレコード札幌ビズオ店、仙台バルコ店、新宿店、池袋店、秋葉原店、名古屋バルコ店、名古屋近鉄バスセ、京都店、梅田大阪マルビル店、梅田 Nu 茶屋町店、難波店、神戸店、広島店、福岡店

disk union TOKYO, JAPAN <http://diskunion.net/jazz/>



## WE BUY YOUR COLLECTIONS WANTED!! JAZZ VINYL / CD



- ① diskunion Jazz TOKYO TEL: 03-3294-2648  
2F, 2-1-45 Kanda Surugadai, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0062, Japan
- ② diskunion Shinjuku Jazz Shop TEL: 03-5379-3551  
3-31-2 Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 160-0022, Japan
- ③ diskunion Kichijoji Jazz & Classical Music Shop  
TEL: 0422-23-3533  
2F/3F, 1-8-24 Kichijoji Honcho, Musashino-shi, Tokyo 180-0004, Japan
- ④ diskunion Shibuya Jazz / Rare Groove Shop  
TEL: 03-3461-1161  
BF, 30-7 Udagawacho, Shibuya-ku, Tokyo 150-0042, Japan
- ⑤ diskunion Yokohama-Kannai Shop TEL: 045-661-1541  
2F, 4-45 Tokiwa-cho, Naka-ku, Yokohama-shi, Kanagawa 231-0014, Japan



毎日がキャンペーン  
音楽・映像・ゲーム・グッズのオンラインショップ

ジャズの最新情報はこちら!  
HMV ONLINE JAZZ  
[http://www.hmv.co.jp/hmv/genre\\_jazz\\_1\\_00/](http://www.hmv.co.jp/hmv/genre_jazz_1_00/) HMV ジャズ 検索

- HMV ONLINE  
<http://www.hmv.co.jp/hmv/>
- HMV MOBILE  
<http://m.hmv.co.jp>
- facebook  
<http://www.facebook.com/hmvjapan>
- twitter  
[http://twitter.com/HMV\\_Japan](http://twitter.com/HMV_Japan)

HMV PREMIUM 丸善丸の内にてジャズコーナー大幅拡充

Blue Note  
TOKYO

BLUE NOTE TOKYO  
Call: 03-5485-0088  
[www.bluenote.co.jp](http://www.bluenote.co.jp)

〒107-0062 東京都港区南青山8-3-16 ライカビル

COTTON  
CLUB

COTTON CLUB  
Call: 03-3215-1555  
[www.cottonclubjapan.co.jp](http://www.cottonclubjapan.co.jp)

〒100-6402 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビルTOKIA 2F